

悪いと思うのにしてしまう？

～うわさが及ぼす悪影響を軽減するためには～

目次

- I. 現状分析・問題意識
- II. 先行研究及び本稿の位置づけ
 - III. 理論・分析
 - IV. 政策提言
 - V. おわりに
 - VI. 先行研究

市野ゼミナール

11531080 大原由樹 11531115 河本京香
11531225 千賀汐莉 11531248 中島由貴
11531268 西野友香 11531356 三好敦子 11531363 八尾郁歩

I. 現状分析・問題意識

(1) 日常の会話の中で

うわさというのは誰でも一度は話したことがあるはずだ。日頃話すうわさには、他人のうわさやおいしいお店のうわさ、学校の先生のうわさ、気になる人のうわさなどがある。そして、老若男女問わず、うわさ話で会話が盛り上がることもあるだろう。

うわさの内容によっては、おいしいお店のうわさを聞きつけ実際に訪問し、おいしい食べ物を食べられて良い思いをした人もいれば、悪いうわさを流されて嫌な思いをした人もいる。つまり、うわさというのは、良いうわさにせよ、悪いうわさにせよ、人に影響を与えることができる。

(2) そもそもうわさとは

そもそもうわさとはどのようなものなのだろうか。うわさはいつの間にか話されていて、誰もが話したり聞いたりすることがある。うわさは、誰が言ったのかわからないうえ、誰がそのうわさの発信源なのかもわからないため、自分が言い始めても特定されず、誰も止めることなくどんどん広がる。良いうわさは、評判と言いかえることもできる。しかし、“うわさ”と聞くと悪いイメージが思い浮かぶことが多い。

この論文でのうわさの定義は「うわさとは、あいまいな内容で事実かどうか分からない、不確実性があるにも関わらず、人間関係のなかで急速に広がり、時に人に様々な影響を与えるもの」とする。

(3) 現状分析

普段、私たちはうわさを会話の中で話している。しかし、時に、その何気ないうわさ話が人に大きな悪影響を与えることもある。何気ないうわさが人に大きな影響を与えた事例を調べてみると多くの事例が見つかった。たとえば、「トイレトペーパー枯渇事件」や「佐賀銀行倒産デマ事件」、「ライオンが逃げ出した事件」などがある。

「トイレトペーパー枯渇事件」は、1973年オイルショックが起こり、とあるスーパーの広告で「紙がなくなる！」と書いたところ客が殺到したというものである。このうわさは、各地に飛び火し、便乗してトイレトペーパーの値段を上げた店舗もあった。また、トイレトペーパーを買い占めて他所で転売するといった悪質な買占めも起こり、そのせいで、トイレトペーパーが本当に必要な人に行きわたらなかつたり、今すぐ必要ではないのに不当に高い価格で買う人が出てきたりした。これが原因でトイレトペーパーは、翌1974年1月28日には国民生活安定緊急処置法の指定品目に追加され、標準価格に指定された。最終的には供給が回復し、騒動も収まった。トイレトペーパーの標準価格が指

定されたことによって、売り手は価格を自由に決めることが出来なくなり、買占めを行った商社は大損をした。「紙がなくなる！」という単なる宣伝が広範囲に広まり、人々を混乱し紙がなくなるかもしれないという不安・恐怖を人々に与えた。

次に、「佐賀銀行倒産デマ事件」は、2003年12月25日に、佐賀県在住の当時22歳の女性が友人から「佐賀銀行が26日に倒産するらしい！」という話を電話で聞き、26人の知人らにメールを出したことがきっかけで瞬く間に情報が広がり、取り付け騒ぎがおこったというものである。それまでの佐賀における倒産状況などから不安が誘発され不安にかけられた預金者が12月25日昼ごろから預金引き出しのために佐賀銀行の窓口・ATMに並び長蛇の列ができ、この結果、引出・解約されたりした預金は約500億円に上った。

最後に、「ライオンが逃げ出した事件」は、熊本地震で「地震のせいで動物園からライオン放たれた。熊本」というデマ情報が、実際に海外で逃げ出したライオンの画像とともに、Twitterを使って発信されたというものである。うわさを流された熊本市動物園には、翌日に100件以上の問い合わせが殺到し、職員が対応に追われ、熊本市が被害届を出した。投稿者は動物園の業務を妨げたとして逮捕された。このデマは、周辺住民に不安にし、動物園関係者の業務を妨害するという悪影響を与えた。

(4) 問題意識

このような事例を踏まえ、私たちは、時にうわさは何千人もの人々を混乱させ悪影響を与えることがあるのではないかと考えた。しかも、うわさの悪影響は、「トイレトペーパー枯渇事件」と「佐賀銀行倒産デマ事件」の事例のようにうわさが流れることにより混乱を与える悪影響だけでない。うわさが及ぼす悪影響で、先ほどの混乱を与える事例とはまた違う悪影響を与えた事例をあげる。

1つ目の事例は「アイドルがいる事件」で、2010年3月26日午後4時20分頃、東京・原宿の竹下通りで、「アイドルがいる」といううわさが流れ、女性らが殺到し、押し合いになり、数人が折り重なるように倒れたというものである。原宿署によると、頭や腹を踏まれた都内の中学1年生の女子生徒など、13～16歳の女性5人が体調不良を訴えた。うち4人が病院に搬送された。しかし、実際に有名人が来た事実は確認されなかったということである。

2つ目の事例は、「韓国女優が自殺事件」で、韓国女優のチェ・ジンシルが悪質なうわさのせいで自殺したというものである。「チェ・ジンシルが友人に25億ウォン貸した後、返済できなかった友人を脅迫した」という本当かどうかわからないうわさが流れ、日ごろのストレスなどからうつ病となり、チェ・ジンシルは自殺をしてしまった。

この2つは、うわさが流れることにより怪我や、最悪の場合は自殺してしまった事例である。うわさがそのような脅威になってしまわないために、うわさが多くの人に悪影響を及ぼすのを軽減しなければならないと私たちは考えた。

本稿における問題意識は、「どのように対処すればうわさによる悪影響を軽減できるのか、

そのためには、人はどのようなうわさを話すのか、そのうわさがどのような結果をもたらすのかを分析する」ということである。私たちがこの研究で考えている「うわさが及ぼす悪影響」というのは、人が嫌な思いをする・混乱させる・怪我をする。最悪の場合、自殺に追い込むということである。

Ⅱ. 先行研究及び本稿の位置づけ

(1) 先行研究

うわさに関する先行研究では、うわさの広まり方やうわさの機能など、うわさそのものに関する研究がされていた。ここでは3つの研究を取り上げる。

稲葉哲郎(2003)は、うわさの伝播過程を示したものである。うわさを4つに分類(ゴシップ、流言(デマ)、都市伝説、再帰型流言)し、それぞれのうわさがどのようにして伝わるのかの過程を述べている。

竹中(2007)は、うわさと日常生活の関連を示したもので、大学生の日常会話におけるうわさの機能を4つに分類(娯楽機能、沈黙回避機能、場の盛り上げ機能、情報提供機能)し、うわさを話す動機について研究していた。

Weenig, Groenenboom, & Wilke(2001)は、人事異動に関する良い内容についてのうわさと悪い内容のうわさの伝達を比較する実験室実験を行っており、悪い内容の場合、はっきりした内容のうわさよりもあいまいな内容のうわさのほうが伝達されやすいことを明らかにしている。

(2) 本稿の位置づけ

先行研究ではうわさそのものの研究が多く、うわさが広まることによる影響については、私たちの知る限りでは示されていなかった。本稿では、うわさが広がることによる悪影響を問題視し、悪影響を軽減すべきだと考えている。

そこで、うわさが広まることによる悪影響を測るために、①インターネットのサイトを用いた分析、②大学生対象のアンケート調査を行った。

① インターネットのサイトを用いた分析

本稿では、うわさによる悪影響の大きさを測るために、どのような内容のうわさが広がっているのか、また、そのうわさは事実だったのかを知る必要があると考えた。そこで、インターネットで“うわさ”と検索し、検索結果の上位にあった「黒い噂 人気一覧 NAVER まとめ」のサイトを分析に用いることにした。なぜこのサイトを選んだのかというと、このサイトには芸能人のうわさが多く、その記事に view 数(閲覧数)が書かれており、view 数がうわさの広まりの指標になると考えたからである。また、芸能人については、インタ

一ネットで検索できるため、そのうわさが事実か嘘かを事実確認することができる。このようにして、人々は芸能人のどのような内容のうわさに興味があるのかを分析した。

② 大学生対象のアンケート調査

NAVER まとめを用いた分析では芸能人に関するうわさであるため、他人事だと見られているうわさだった。そこで身近な大学生にアンケートを行い、大学生は普段どのようなうわさ話をしているのか、また、どのようなうわさが広まると悪いと思っているのかを尋ねた。

本稿の新規性は、「どのように対処すればうわさによる悪影響を軽減できるのか」を示すことである。対処法を示すことで、うわさが広まることによって嫌な思いをすることや、パニックを起こすという重大な問題を軽減できると考える。

Ⅲ. 理論・分析

私たちの研究目的は悪影響を軽減することであり、軽減するためには悪影響の大きさを測らなければならない。しかし、ひとつのうわさについて、そのうわさがもたらした悪影響を測定することは非常に難しい。そのような中、私たちは次のような 2 つの方法でうわさの悪影響を測ることにした。1 つ目は、インターネット上のうわさをまとめたサイトの view 数で測り、2 つ目は、大学生にアンケートをとり、うわさが広がるのがどれだけ悪いと思っているのかを尋ねることである。

(1) 「黒い噂の人気まとめ一覧 - NAVER まとめ」を用いた分析

1 つ目の分析は、Google で“うわさ”と入力し、検索結果で上位に出てきた「黒い噂の人気まとめ一覧 NAVER まとめ」(2017 年 11 月 7 日時点) というサイトを用いて分析を行った。

このサイトは他のサイトに比べて、芸能人についての悪いうわさが書かれていた。さらにこのサイトではうわさごとに view 数 (アクセスした回数) が書かれている。view 数が増えるということは、多くの人にそのうわさが広まっていると解釈できる。つまり、view 数の多さが、うわさされている当人に対する悪影響の全てではないが、悪影響の一部であると考えられる。なぜなら、芸能人にとっては自分についてのうわさを多くの人に知られていることは嫌な思いをする 1 つの要因だと考えられるからである。このようにインターネット上にある有名人のうわさに対象を限定したことで、view 数によってうわさの悪影響を測ることにした。

私たちは、2017 年 10 月 4 日の「黒い噂」のページの上位 128 件の芸能人にまつわるうわさをデータとして扱った。

このサイトは、「【森泉】【本田翼】【篠原涼子】の気になる噂、黒い噂まとめ」というようなタイトルが一覧で並んでいる。閲覧者が一覧で並んでいるタイトルの中から 1 つのタ

タイトルを選びクリックすると、その記事の詳しく書かれたページに行くことができ、うわさの内容を読むことができる。そのタイトルを選ぶときのクリックによって、view 数が 1 つずつ増えていくしくみとなっている。閲覧者は、記事のタイトルに興味や関心をもってその記事をクリックすると考えられるので、view 数は、記事のタイトルに依存しているはずである。例であげたタイトルの場合、森泉や本田翼、篠原涼子に興味のある人や、一般的に女優に興味がある人がこの記事を閲覧しているはずである。そこで、私たちは、閲覧者がタイトルのどのワードに興味を持ってその記事を見たいと思ったのかを知るために、タイトルに含まれているワードを以下のような属性にあてはめた。

- ・人（うわさされている人は誰なのか）：[芸能人、アスリート、時事、一般人]
（人以外のうわさは時事（歴史、事件など）に分類した）
- ・職業（うわさされている人の職業）：
[俳優、女優、タレント、歌手、ジャニーズ、アイドル、宗教、暴力団]
- ・うわさの対象（本人のうわさなのか、その人の家族に対するうわさか）：[本人、家族]
- ・うわさの内容：[不倫、熱愛、番組、風俗、引退、整形、薬物、事件、事故、横領]
- ・タイトル（記事のタイトルの中に芸能人の名前はあるのか）：[名前、人数]
- ・その他：[ヒット数、view 数、日にち]

なお、記事を実際にクリックして内容を見れば記事のタイトルには書かれていない属性を持つ内容も含まれていることがある。たとえば、「【森泉】【本田翼】【篠原涼子】の気になる噂、黒い噂まとめ」では、記事のページに行けば、熱愛や不倫のうわさが書かれていることがわかる。しかし、閲覧者がこのタイトルをクリックするときには、その記事に、熱愛や不倫などのうわさが書かれていることはわからない。したがって、私たちは、記事の内容ではなくタイトルに出てくるワードのみに着目して、その記事に属性をあてはめている。

[名前]は、タイトルの中に人物名があるかないかである。

[人数]は、タイトルの中に載っている人の数が多いほうが多くの人を引き付けているかもしれないので人数を測った。

[ヒット数]は、タイトルに載っていた人物の名前を Google 検索した時の検索件数のことである。ヒット数でその人の有名度を測った。なぜヒット数という変数を作ったのかというと、有名人のほうがうわさの記事を見られているかもしれないと考えたからである。

[view 数]は、サイトの記事の閲覧数である。回帰分析の被説明変数である。

[日にち]は、その記事の最終更新日からこのデータを作った 2017 年 10 月 18 日までの日数のことである。最終更新日が近いということは新しい記事ということで新鮮さや話題性で見られている。もしくは、最終更新日が古いと古くからある記事だから長期にわたって見られているかもしれないと考え、そのような可能性を考慮した。

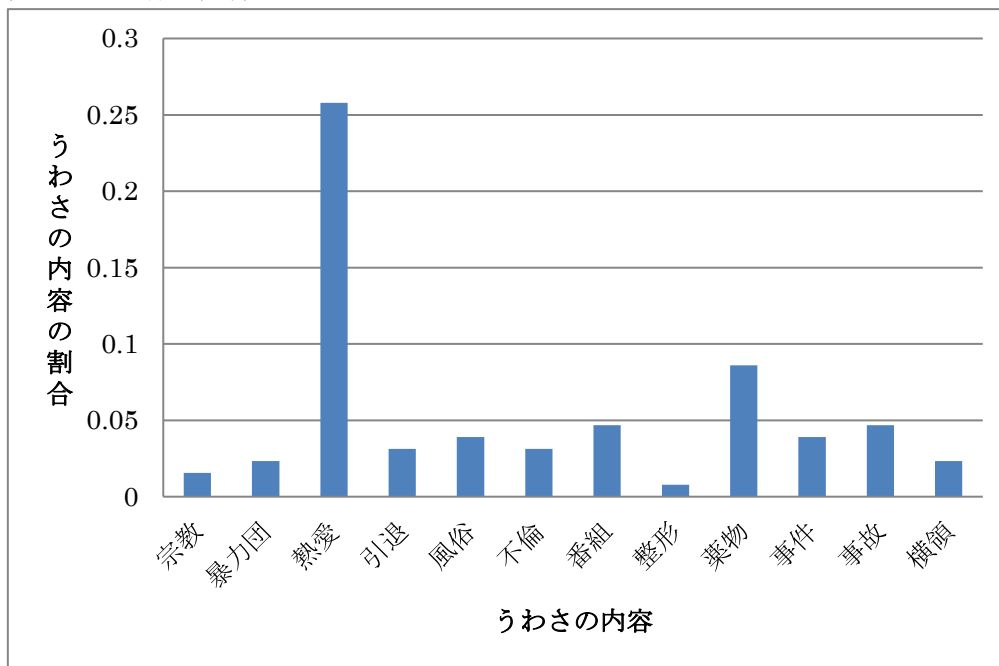
そのほかの変数は、当てはまるか当てはまらないかでそれぞれの項目に 0 か 1 で入力している

表 1 記述統計量（「黒い噂の人気まとめ一覧 - NAVER まとめ」）

	平均値	標準偏差	最大値	最小値
芸能	0.75	0.434714	1	0
アスリート	0.054688	0.228263	1	0
時事	0.117188	0.322907	1	0
一般	0.09375	0.292626	1	0
俳優	0.171875	0.378754	1	0
女優	0.179688	0.385436	1	0
タレント	0.1875	0.391846	1	0
歌手	0.125	0.332018	1	0
ジャニーズ	0.34375	0.476825	1	0
アイドル	0.0625	0.243013	1	0
宗教	0.015625	0.124507	1	0
暴力団	0.023438	0.151883	1	0
本人	0.625	0.486025	1	0
家族	0.039063	0.194505	1	0
熱愛	0.257813	0.439149	1	0
引退	0.03125	0.174676	1	0
風俗	0.039063	0.194505	1	0
不倫	0.03125	0.174676	1	0
番組	0.046875	0.212202	1	0
整形	0.007813	0.088388	1	0
薬物	0.085938	0.281373	1	0
事件	0.039063	0.194505	1	0
事故	0.046875	0.212202	1	0
横領	0.023438	0.151883	1	0
名前	0.65625	0.476825	1	0
人数	0.914063	0.832673	4	0
ヒット	15508330	48213888	385000000	3
View 数	164961	577795.3	5185162	977
日にち	478.3525	381.7485	2150	0

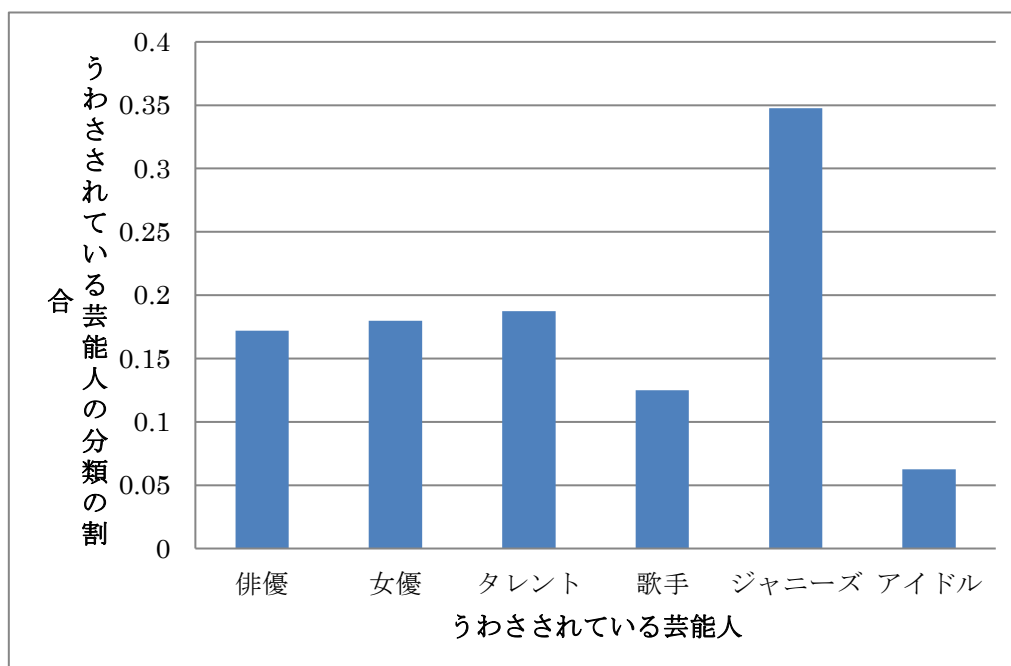
表 1 はこの分析で用いたデータの記述統計量である。
それぞれの項目の平均値、標準偏差、最大値、最小値を示している。

図1 うわさの内容の割合



「黒い噂の人気まとめ一覧 - NAVER まとめ」では、記事のうわさの内容を12項目に分けた。一番多く記事になっていたうわさの内容は、芸能人の熱愛のうわさ、次に薬物のうわさについてであった。私たちが標本として抜き出したうわさの記事のうち、一番多かった内容は、熱愛と薬物である。

図2 うわさされている芸能人の分類の割合



うわさされている芸能人の分類で、私たちの標本のうわさの記事のうち、3分の1以上がジャニーズ事務所所属の芸能人に関するうわさであった。

表2では、どのようなうわさが多く見られているのかを分析するために、view数を従属変数とした回帰分析を行った。その分析結果は以下のとおりである。

表2 回帰分析の結果（「黒い噂の人気まとめ一覧 - NAVER まとめ」）

	係数	Std. Error	t 値	p 値	
定数	376578	101450	3.7120	0.0004	***
錦織	5.22995e+06	293773	17.8027	<0.0001	***
ASKA	2.13188e+06	387384	5.5033	<0.0001	***
日数	-330.753	129.836	-2.5475	0.0125	**
俳優	2013.18	81344.2	0.0247	0.9803	
女優	56030.4	88148.4	0.6356	0.5266	
タレント	-18368.5	82439.8	-0.2228	0.8242	
歌手	-141111	98979.9	-1.4257	0.1574	
ジャニーズ	24324.6	72781.9	0.3342	0.7390	
アイドル	95833.8	195849	0.4893	0.6258	
宗教	-129986	207354	-0.6269	0.5323	
暴力団	154138	184889	0.8337	0.4066	
本人	-79524.7	78411.3	-1.0142	0.3132	
家族	45658.2	196044	0.2329	0.8164	
熱愛	29668.5	75486.8	0.3930	0.6952	
引退	107550	148007	0.7267	0.4693	
風俗	375321	134764	2.7850	0.0065	***
不倫	6476.69	152062	0.0426	0.9661	
番組	33541.1	122971	0.2728	0.7857	
整形	-197866	359039	-0.5511	0.5829	
薬物	446653	98463.9	4.5362	<0.0001	***
事件	-101661	156133	-0.6511	0.5166	
事故	-82084.5	129268	-0.6350	0.5270	
横領	-246683	189706	-1.3003	0.1968	
名前	-137363	109137	-1.2586	0.2114	
人数	-6895.94	66054.2	-0.1044	0.9171	
ヒット数	1.64951e-05	0.000578984	0.0285	0.9773	
アスリート	-201823	130985	-1.5408	0.1268	
時事	-110336	102881	-1.0725	0.2863	
一般人	-195885	114638	-1.7087	0.0909	*
年月	714404	280453	2.5473	0.0125	**

Mean dependent var	172643.8	S.D. dependent var	590871.2
Sum squared resid	6.42e+12	S.E. of regression	265546.0
R-squared	0.848103	Adjusted R-squared	0.798027
F(30、 91)	16.93631	P-value(F)	9.22e-26
Log-likelihood	-1678.952	Akaike criterion	3419.904
Schwarz criterion	3506.828	Hannan-Quinn	3455.210

[錦織]は、プロテニスプレーヤーの錦織圭のことで、熱愛に関する記事で、view 数は 500 万件を超えていた。[ASKA]は、歌手の ASKA のことで、覚せい剤に関する記事で view 数は 200 万件を超えていた。これら記事は view 数がほかの記事と比べて view 数が多かったの
で、錦織ダミーと ASKA ダミーを作ってこれらの記事を特別扱いした。

[年月]は、その記事の最終更新日が、記述統計量の[日にち]の平均と比べて明らかに古い記事について年月ダミーを作り、その記事を特別扱いした。

回帰分析結果は以下のように解釈することができる。

俳優や女優、ジャニーズは、閲覧者の好き嫌いで記事を読んだり読まなかったりすると考えていたが、好きな俳優、好きな女優のうわさの記事だからと言って読まれているわけではなかった。特にジャニーズについても記事の数は全体の 34%と多いが、ジャニーズの記事であるという理由だけで見られているわけではないとわかった。よって人の属性では見られていないということがわかった。

一般人は、係数にマイナスがついているので他のうわさの記事に比べて、一般人のうわさの記事は読まれていなかった。人の属性は関係ないが、一般人だけは唯一関係があり、俳優や女優などに比べて読まれていないということがわかった。また、うわさの内容で、熱愛についてのうわさの記事が多く、テレビニュースなどでも熱愛についての報道は多いので、熱愛のうわさは人々が最も興味があると思っていた。しかし、その記事が熱愛の要素を含んでいるというだけで読まれているわけではないことが分かった。実際にうわさの内容で view 数に影響を与えているのは、風俗と薬物の記事であることがわかった。風俗と薬物以外の内容では、熱愛を含め、このうわさの内容だからという理由で view 数に影響を与えるということはない。薬物の view 数が多かった理由として、分析した時期がちょうど薬物問題が話題性を持っていたからではないか、ということも考えられる。しかし、不倫問題も話題性を持っていたにもかかわらず不倫についてのうわさが書かれているからという理由で見られているわけでもないことが分析からわかった。つまり、流行り、話題性があるからという理由でその記事を読んでいることではないということがわかる。

つまり、人々はどのようなうわさに興味があるかということ、薬物や風俗などの内容を含むうわさである。これがどういうことなのかということ、そのうわさが広がったら、そのうわさされている当人がうわさの広がりによって傷ついたり、嫌な思いをするうわさであるといえる。もし、そのうわさが嘘だったり不明だったりするとそのうわさをされた当人はもっと傷つき、それは不当に傷つけられているといえる。

そこでさらに、「黒い噂の人気まとめ一覧 - NAVER まとめ」に書かれていた風俗と薬物の記事について事実確認を行った。風俗の記事のうち、不明 4 件、事実 3 件、嘘 0 件であった。また、薬物の記事のうち、不明 14 件、事実 5 件、嘘 0 件であった。風俗で事実だったものは、本人のプロフィールに風俗の経験がある場合とし、薬物で事実だったものは、本人が認める、または逮捕された場合とした。

以上の事実確認より、うわさの内容もよくない上に、不確実なうわさが流されているということがわかった。これは、本当か嘘なのかかわからず、もし嘘ならそのうわさを流されている人に強いダメージを与えてしまううわさが広まっているということである。まとめると、多くの人に広まってしまうという意味で、悪影響の大きいうわさというのは、うわさをされている本人にとっては、その内容が特に知られたくない種類のうわさであり、しかもその内容は不確実であるという意味でも悪影響が強いうわさである。これが「黒い噂の人気まとめ一覧 - NAVER まとめ」の分析における主要な結果である。

(2) アンケートを用いた分析

分析の2つ目は、大学生128人（男子57人、女子56人、無記名15人）に対するアンケートの実施である。

なぜ、大学生にアンケートを実施したのかというと、NAVERの「黒い噂」のまとめサイトでは、芸能人がうわさの主な対象であり、「自分は直接関係ない、他人事だ」と思っているうわさであったからである。もし、仲の良い友達が別の友達のうわさを話しているとしたら、そのうわさを話している友達は悪影響を及ぼしていると考えて話しているのだろうか。そこで、対象を大学生にし、どのようなうわさが広がると悪いと思っているのか、またどのようなうわさを実際に話しているのかをアンケートで尋ねた。アンケートの質問は、次の17項目である。

1. あの人浮気してるらしい
2. あの人別れたらしい
3. あの人、〇〇さん（くん）のことが好きらしい
4. あの人性格悪いらしい
5. あの前モンスターらしい
6. あの先生の授業単位とりにくいらしい
7. あの会社業績悪くて潰れるらしい
8. あの会社ブラックらしい
9. あのお店の料理まずいらしい
10. あそこのアトラクションで事故があったらしい
11. あのダイエット法ムダらしい
12. あの人整形したらしい
13. あの人キャバ嬢・ホストらしい
14. あの人金返さないらしい
15. あの人薬やってるらしい
16. あの番組やらせらしい
17. あの先生、生徒に手出して飛ばされるらしい

質問項目は 17 個あり、NAVER まとめで分類した内容の項目に関するものにした。NAVER まとめで分類したものは対象が芸能人であったため、見られているうわさであり、実際に話すうわさと見られているうわさに違いがあるのかを比べるため、内容の項目を NAVER まとめで分類したものにした。

1つの質問に対して、広まると悪いと思う度合いと、よく話す度合いをそれぞれ回答してもらった。アンケートの質問内容は、「黒い噂」のサイトを分析するときに使った属性と同じ内容のうわさにし、見るうわさと話すうわさに違いはあるのかを調べた。広まると悪いと思う度合は 5 段階で回答してもらい、その選択肢は、(4.とても悪い、3.悪い、2.どちらかという悪い、1.どちらかという悪くない、0.悪くない) である。また、話したことがある度合も 5 段階で回答してもらい、その選択肢は、(4.よくある、3.ある、2.どちらかというとある、1.どちらかというもない、0.ない) である。

(3) アンケートの分析結果

うわさが及ぼす悪影響を軽減するために、うわさをよくする人にうわさをあまりさせない対策をしたいと私たちは考えた。しかし、見た目ではうわさをする人か、しない人かの判断はできないため、うわさをする人がするうわさを特定し、うわさをする人としない人がよくするうわさの内容が違っていれば、うわさを話す内容でうわさをする人かしない人かが判断できる。そうすれば、うわさの内容に規制をかけることで、間接的に、うわさをよくする人にうわさをあまりさせないようにできるのではないかと考えた。

そこで、私たちはアンケートに答えた人を、うわさをする人としない人で分け、話すうわさの内容が違うのかを順位を付けることにした。そして、アンケートに答えた人が、うわさをよくする人かしない人か見分けるために、5 段階の回答の選択肢で、うわさをする度合で 2 以上だった人はうわさをする人、うわさをする度合で 2 未満だった人はしない人に分けた。

する人・しない人がするうわさランキング

する人	うわさ	しない人
1位	あの人、〇〇さん(くん)のことが好きらしい。	2位
2位	あの人性格悪いらしい。	3位
3位	あの先生の授業単位取りにくいらしい。	1位
4位	あの人別れたらしい。	5位
5位	あの人浮気してるらしい。	1 1位

する人・しない人がしないうわさランキング

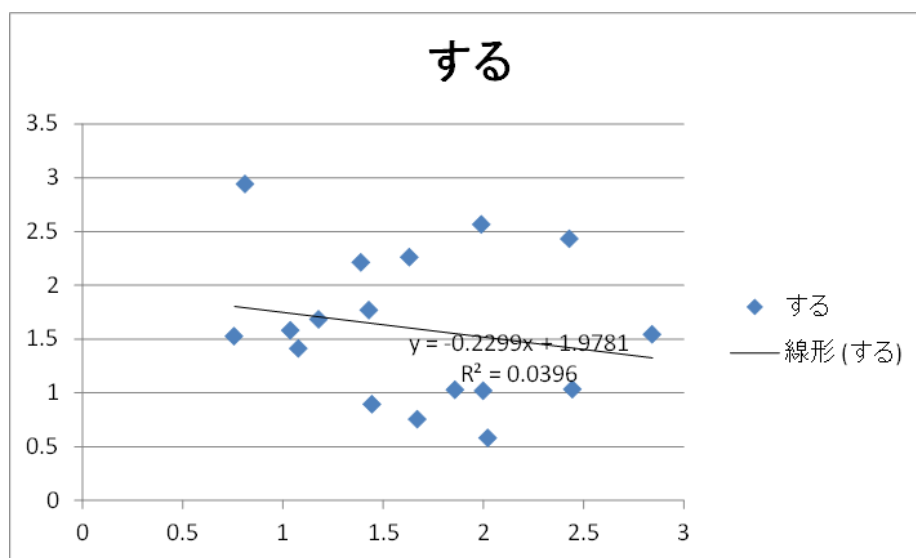
する人	うわさ	しない人
1位	あの人薬やってるらしい。	1位
2位	あの会社業績悪くて潰れるらしい。	4位
3位	あの先生、生徒に手出して飛ばされるらしい。	2位
4位	あの親モンスターらしい。	6位
5位	あの人整形したらしい。	5位

うわさをよくする人がするうわさ上位 5 つと下位 5 つが、うわさをあまりしない人にとっては何位にあたるのか比較したランキングを作成した結果、日頃からうわさをする人もしない人もするうわさの内容はほぼ同じことがわかった。このことから、特定のうわさに対して規制をかけることによってうわさをよくする人だけを対象としてうわさをさせないようにすることは難しいと言える。

またこのアンケート結果からわかったことは、「黒い噂」のまとめサイトでは、風俗と薬物のうわさに人々は興味があるということが分かったが、大学生にアンケートをとると、日頃私たちが話すうわさは、「あの人、〇〇さんが好きらしい」という恋愛に関するうわさや、「あの人性格悪いらしい」という性格に関するうわさが多いということがわかった。つまり、風俗や薬物に関係するうわさは日ごろの会話では話されておらず、話すうわさと見るうわさでは違いがある。そのため、うわさの悪影響を軽減させるためには話すうわさと見るうわさを区別した政策をとる必要がある。

図3の散布図は全17種類のうわさについて、質問ごとに、回答者の平均値を求め、それぞれのうわさの「広まると悪い度合い」と「話す度合い」をグラフにしたものである。このグラフによって、うわさが広まると悪いと思っているにもかかわらずそのうわさをするのか、逆に、悪いと思っているからそのうわさをしないのか、その傾向を見ることができる。

図3 うわさが広まると悪い度合い、うわさを話す度合いの関係



縦軸：うわさを話す度合い（数字が大きいほどうわさをよく話す）

横軸：うわさを広めると悪いと思う度合い（数字が大きいほどうわさを広めると悪いと思っている）

この散布図より、そのうわさが広がるのを悪いと思っているから、うわさを話さないでおこうというわけでもなく、うわさが広がるのを悪いと思っているのに、つつい話してしまうということでもないということが見てとれる。つまり、そのうわさが広がるのが悪いと思っていようがまいが、そんなことは関係なく、話すうわさは話すということがわかった。これは、「悪いと思うのにしてしまう？」という本稿のタイトルの答えでもある。つまり、広まると悪いと思っているにもかかわらず、そのうわさを話してしまうという傾向はない。その逆に、広まると悪いと思っているので、そのうわさはしないでおこう、という傾向もない。うわさを話す度合いとうわさを広めると悪いと思う度合いには関係性がない。

これらの分析結果より、うわさの持つ特徴や特性について理解したうえで、私たちは悪

影響を及ぼすうわさの改善策を見つけることにした。

IV. 政策提言

黒い噂のサイトと大学で行ったアンケートの結果より、政策提言するにあたって考慮すべきポイントは、次のとおりである。

- ① うわさをよくする人もあまりしない人も話す内容は同じ
- ② 悪影響を悪いと思っていなくても、それとは関係なくするうわさはする
- ③ 悪影響を与える内容でかつ不確実なうわさがより見られている

(1) 義務教育の一環として、日本語検定を受けさせる。

Weenig, Groenenboom, & Wilke(2001)は、悪い内容のうわさの場合、はっきりとした内容のうわさよりもあいまいな内容のうわさのほうが伝達されやすいことを示している。そこで、私たちは、義務教育の一環として日本語検定を受けさせることを提案する。この検定を受けることで、人々はより多くの言葉を知ることができる。言葉をたくさん知っているほど、物事を考えるときにより深く、細かく考えることができ、言葉のあいまいさを軽減することができる。この教育を義務教育の時点で受けさせることにより、①読解力の強化②自己判断力の強化③表現力の強化が見込まれる。個人単位でこれらの情報処理・伝達の能力を向上させることができるため、大人になる前にこのような教育を受けることで、あいまいな表現を知らず知らずのうちにしてしまったり、あいまいな表現に惑わされたりすることがなくなり、簡単にうわさに流されることもなくなる。費用の問題については、教育の機会均等とその水準の維持を目的とする義務教育費国庫負担からの資金調達を通じて、義務教育の一環としてこの教育を受けさせることとすれば、受験者の直接的な負担額は少ない。また、この資格は将来の就職活動の際に活用することができる。

この政策は、内容も良くなく、事実かどうか分からない不確実なうわさを減らすことができる、と考える。つまり③を改善することができる。

(2) フィルタリングサービスに黒い噂のサイトを追加する。

フィルタリングサービスとは、子供が安全かつ安心してインターネットを利用できるよう、有害サイトへのアクセスをブロックすることのできるサービスである。「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」は青少年(18歳に満たない者)に対して、携帯電話利用時に、強制的にフィルタリングサービスを受けさせること

を義務付けている。しかし、この設定は年齢に応じて変更することができ、「フィルタリングサービス不要申請書(法定代理人同意書)」を提出すれば、このサービスを受けないことも可能である。従来のフィルタリングサービスは、SNS 利用もブロックされていた。そのため、これまで高校生はほとんどフィルタリングサービスを受けていなかった。

ところが、2017年3月1日から「高校生プラス」という制限レベルが新たに追加された。「高校生プラス」というのは、以前まで高校生の有害サイト(出会い系やアダルトサイト)へのアクセスと SNS 利用がブロックされていたが、SNS 利用が可能となる制限レベルである。高校生の年齢になると、フィルタリングサービスを受ける割合は減少傾向にあったが、この新しい制限レベルが追加されることによって、高校生のフィルタリングサービス利用者が増えた。電気通信事業者協会が「高校生プラス」を選択した保護者へのヒヤリングを実施(A社 期間:2017年5月15~31日、対象者:1041人)したところ、高校生プラスを選択した理由を、「SNS が利用できるから」と回答したのが約90%、「高校生プラスがなかったらフィルタリング加入をしていなかった」と答えたのは約50%だった。

この現状から、高校生にも SNS を除く出会い系やアダルトサイトに関する内容の規制を保護者が必要としているニーズが存在することがわかった。現在このフィルタリングサービスには黒い噂を含むサイトは含まれていない。本稿より、黒い噂のサイトでは成年嗜好やアダルトの内容が多く含まれていることが分かった。したがって、このフィルタリングサービスに「黒い噂の人気まとめ一覧 - NAVER まとめ」のような黒い噂を含むすべてのサイトを追加することを私たちは推奨したい。この処置をおこなうことで、サイトにアクセスできる人数を制限できるので、うわさにふれる機会を減らすことができる。

この政策は、うわさをする人を減らすことができ、また風俗や薬物といった内容の良くない不確実なうわさに人々の興味を注ぐことを防ぐことができると考える。つまり①と③を改善することができる。

(3) 特定の個人や集団の人権を侵害する恐れのあるものを含むサイトの利用規約設定

特定の個人や集団の人権を侵害する恐れのあるものを含むサイト「黒い噂の人気まとめ一覧 - NAVER まとめ」のような記事を閲覧しにくくするためにあらかじめ対策を行う。その方法は、次の2つである。

1. 強制的にサイトを一部有料にする。有料になると、お金を払わないといけないので、サイトにアクセスすることを抑制することができる。
2. 強制的にサイトを会員制にする。会員登録をすればそのサイトをすべて閲覧できるが、会員登録をしなければそのサイトの一部しかみることができない。会員登録の手間をかけないと閲覧することができないことから、サイトにアクセスすることを抑制することができる。

うわさをする要因には、うわさの機能(娯楽機能、沈黙回避機能、場の盛り上げ機能、情報提供機能)が関係しているため、日常会話の中でうわさはすぐに生まれ、またサイトを利

用することによってそのうわさはすぐに広がってしまう。閲覧者に対して、サイトにアクセスするためにコストと手間をかけさせることで、うわさが生まれにくい環境を提供することができる。

この政策は、うわさをする人を減らすことができ、うわさをする人もしない人もうわさをしにくくすることができると思う。つまり、①と②を改善することができる。

V. おわりに

本稿では、「うわさがもたらす悪影響を軽減すること」を目的として、分析を行った。分析から分かったことは、以下の3つである。

- ①うわさをよくする人もあまりしない人も話す内容は同じ
- ②悪影響を悪いと思っていてもいなくても、それとは関係なくするうわさはする
- ④ 悪影響を与える内容でかつ不確実なうわさがより見られている

そして、「義務教育の一環として、日本語検定を受けさせる政策」、「フィルタリングサービスに黒い噂のサイトを追加させる政策」、「サイトの利用規約を設けさせる政策」を提言した。今後の課題として、実現可能性に向けて、「ターゲット対象を青少年や大人とするのではなく、細かくターゲットを絞ること」、「言論の自由を考慮し、うわさを話すことをどこまで規制するのか」が論点であろうと考える。

V. 先行研究・参考文献

- ・ 竹中一平「大学生の日常会話におけるうわさの類型化」（『心理学研究』 Vol. 78 (2007-2008) No. 4 P 433- 440)
- ・ 木下富雄（1994）、「現代の噂から口頭伝承の発生のメカニズムを探る」（木下富雄・吉田民人（編）『記号と情報の行動科学』福村出版 pp.45－97）
- ・ 特定非営利活動法人日本語検定委員会「日本語、検定とは？」
(<https://www.nihongokentei.jp/about/> 2017年12月13日)
- ・ 稲葉哲郎（2003）、「うわさの伝播過程」『一橋論叢』、129(4): 436-447-
- ・ 電気通信事業者協会「フィルタリングサービスの普及に向けた 事業者（TCA）の取組み」
(http://www.soumu.go.jp/main_content/000492786.pdf 2017年11月8日)
- ・ Weenig, M. W. H., Groenenboom, A. C. W. J., & Wilke, H. A. M. (2001)
“Bad news transmission as a function of the definitiveness of consequences and the relationship between communicator and recipient.”
Journal of Personality and Social Psychology, Vol 80(3), Mar 2001, 449-461